

## DI 調査結果（平成31年4月-令和元年6月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『繁忙さは続いているものの、米中貿易摩擦や中国経済の減速などにより、不透明感は増している』

## 【調査概要】

1. 今期(平成31年4月-令和元年6月期)の業況調査DI12項目では、プラスDIは、現場の繁忙さを表す指標の「操業率」2.4(前回16.1)、「受注残」5.6(前回7.7)「生産設備」3.2(前回14.5)の3項目(前回4項目)のみとなった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
  - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が▲23.4(前回▲10.1)、「収益状況」も▲18.8(前回▲12.3)と、さらに減少しており、米中貿易摩擦や中国経済の減速などによる影響が出ている。
  - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」2.4(前回16.1)、「受注残」5.6(前回7.7)「生産設備」3.2(前回14.5)と、減速感はあるものの引き続き忙しい状況が続いている。
3. 来期については、「来期受注」▲15.7(前回▲27.6)、「来期採算」▲21.5(前回▲18.4)、「来期資金繰り」▲10.4(前回▲11.7)と前期の大幅悪化から落ち着きを見せているものの、依然大きなマイナスであり、米中貿易摩擦や中国経済の減速などの影響により先行きは不透明となっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、「人材不足」が27.5(前回36.8)と依然として高いものの操業率の低下を反映して落ち着きを見せている。一方、景気動向の不透明感によって「受注不安定」が38.6(前回32.3)と10期ぶりに最重要課題となっている。
5. 前期10期ぶりに売上高がマイナスに転じて、今期、景気の失速感が増しているが、現場は引き続き忙しい状況を維持している。  
来期については、米中貿易摩擦や中国経済の減速などの海外リスクの影響が懸念され、不透明感は増してきており、予断を許さない状況が続くものと思われる。

